

骨髓バンク 2002年12月 会報21号

日本骨髓バンク骨髓提供希望者(ドナー)登録者数:160,975人(県内2,538人)

骨髓移植希望者(患者数):1,949人(県内44人)

バンクを通じての移植例数:4,460例(県内移植数75例、県内採取数67例)

(2002年10月末現在)

「石岡ふるさとフェスタ2002」ペンシルバルーン募金 &

「いのちのあさがお」上映会(in 石岡)

< 石岡ふるさとフェスタ2002 >

10月26日(土)石岡青年会議所(石岡JC)主催によるフェスティバルに、ペンシルバルーン募金にて参加しました。参加者は川井さんご夫妻、伊井さん親子、萩原さん、鈴木さん、山崎の7名。

当日は雨天の為、屋外会場から石岡小学校体育館での開催となりました。準備はJCメンバーに積極的に協力して頂き、とてもスムーズ。早速ペンシルバルーン募金が始まり、雨天で来場者が少ないかもしれないと予想しましたが様々な演出があった為、続々人が集まり始め、着々と募金は増え続け、JCのご協力もあり結局42,828円の募金が集まりました。心からの募金ありがとうございました。

石岡JCさんは当会へ様々なイベントへお誘いいただいておりますが、日時や参加規約等の問題があり、今までのご好意を受ける事が出来ませんでした。やっと今回のフェスタに参加させて頂き、JCメンバーの暖かい人柄や団結力、ボランティア精神に共感致しました。皆さん素晴らしい方達です。またこれからも皆さんと一緒に出来たらと思いました。(山崎揚久)



< 「いのちのあさがお」上映会 >

11月17日(日)ふれあいの里 石岡 ひまわり館において、石岡青年会議所(石岡JC)主催による「いのちのアサガオ」上映会が開催されました。

この映画は新潟の小学生(コースケ君)と家族が白血病と戦い、無念にも天国へ旅立ってしまいますが、コースケ君が蒔いたアサガオの種が実り、その種が全国へ広まっていく実話をもとにした映画です。県内では小学校などで上映されたことはありますが、このように一般に公開された事は初めてではないかと思えます。

会場受付にはコースケ君が育てたアサガオの種が来場者へ配られたり、コースケ君のパネル展示もあつたりして実感がこもります。会場は約120名ほどの小学生からお年寄りまでほぼ満杯。皆さん36分の上映中は見入っていたようで最後にはあちらこちらで涙が...

上映後、山崎(揚)が元患者としての実体験を話させて頂きました。風邪を引き長話が無理と思い途中でドナー経験者である伊井さんと萩原さんにも加わってもらい、掛け合いで実体験を登録から提供、今の活動や思いを語って頂きました。その中でも一番強烈な印象を客席の皆さんに与えたのは、萩原さんのご主人ではなかったかと思えます。

ご主人へはいきなり話を振ったのですが、「あまり賛成ではなかった」「今日までは何を好き好んで思っていた」「でも今はこの映画を見、そして話を聞いて、我が妻は本当に素晴らしいことをやったんだなぁと思う」「これからは応援していきたい」と、大変正直な感想を熱く語って下さいました。

受付にさりげなく置かせていただいた募金額にも20,422円(中には万札もありました)と、たくさんの善意の募金をいただきました。ありがとうございました。

最後に石岡JCさんには、先月の「ふるさとフェスタ」においても積極的にご協力いただいたところであり、またこのような企画をもつていただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。(山崎揚久)



ドナー登録者30万人をめざして!

県民まつりチャリティー募金

10/12・13 県民まつり報告(笠間芸術の森公園)

10月12・13日の二日間、笠間芸術の森公園で開催されました「県民まつり」は、登録会なしの募金活動のみでした。

初日は、大渋滞に巻き込まれた牛島会長はじめ、山崎夫妻・初参加の川井夫妻・萩原・瀧と県薬務課職員の床宿さんの参加。人出は多いもののテントの目の前通路にドーンと献血バスが停まり、人の流れは殆んど無し。キティーちゃんを背負っての出張バルーン募金となり、成果はまずまず。川井夫妻も慣れないバルーンに悪戦苦闘から大奮闘。次回は「お・ま・か・せ」だね。

二日目は、前日「ツールドいばらき」に参加し筋肉痛の鈴木さんとそれから伊井親子・佐藤朗・床宿さん・瀧の参加。この日は目の前にバスも無く、人の流れも充分にありバルーン制作が間に合わないことしばしば。床宿さんもバルーンの腕前を上げ、伊井「」もアツという間に腕前を上げ「お・ま・か・せ」。

萩原さん手作りのティッシュケースとチューリップ・蝶も好評でベトナム出身の留学生達が日本のお土産が出来たと大変喜んで貰って行きました。二日間のバルーン募金は、51,390円でした。ご協力ありがとうございました。

ただ一つ大変残念だったのは「登録したいのですが」とおっしゃって来た方が5名もいたこと。一人は合同庁舎の職員の方なので、チャンスを渡し12月の県庁登録会をお知らせしておきました。骨髄バンクを知らない方はまだまだいます。これからもPR活動に頑張りましょうね。(瀧 公恵)

【ちょっとひとこと】

ここ数年毎年開催されている”県民まつり”ですが今年笠間芸術の森公園にて開催となりました。初めて芸術の森を訪れましたが、こんなに広いとは思ってもみませんでちょっと驚きです。

年度始めの登録会計画によれば献血並行型登録会を実施する予定でしたが、血液センターが土曜に検体を検査出来ないとの理由により実施は見送りとなりました。(土曜に検体検査が出来ない理由は不明)そのため、当日の朝に薬務課の床宿さんと現地施設で打合せを行い、開催両日ともペンシルバルーン募金を行う事になりました。

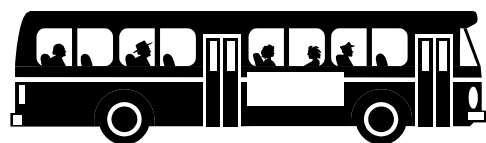
初日、割り当てられたテントで準備をしていると、献血バスが搬入をはじめ(初日のみ献血実施)、当会のテントをふさぐ形での駐車となりました。

事前での打合せではこのような駐車方法は聞いておりませんでしたので驚きでしたし、血液センターの方は誰一人としてこのような駐車方法に説明をしてくれないのがとても残念でした。

逆の立場でしたらこのような行為は許される事は無いと思います。このような血液センターの態度から私たちは完全に馬鹿にされているとしか思えません。とても残念で、この方達が献血に携わっていると思うと悲しくなります。人としても少し気を配ってほしいものです。

このような事から当会のテントは目立たず、初日はとっても地味な募金になってしまいました。

(山崎揚久)



ドナー登録者30万人をめざして!

10/24 農林水産技術会議事務局筑波事務所 登録会報告

10月24日(木)につくば市にある農林水産技術会議事務局筑波事務所で献血並行型登録会が行われました。参加者はつくば保健所から田崎係長、いばらきの会から山崎(揚)さん、中津川さん、伊井の3名でした。

当日は、朝から雨がしとしと降っていて出足が心配されたのですが、さすがに年数回献血を実施している機関で、次から次に職員の方が献血に長い列をつくっており、そういった心配はまったく無用でした。

そして、なんと今年度のこれまでの記録を更新するという、午前11名、午後15名の合計26名というすばらしい(?)結果となりました。ちなみに献血者83名(受付92名)でした。

筑波事務所の担当の厚生課古谷係長も登録してくださいました。古谷さんとはとても協力的で、会場セットまでお手伝いいただき有り難い限りです。来年度も登録会を開いていただけそうで、感謝・感謝。

いわゆる企業型の登録会は私にとって初めての経験でしたが、成功のコツは事前の広報をはじめ、主催者である実施機関の協力体制だということを実感しました。(反省点多々ありましたが…)

また、もっぱら説明は山崎さん、中津川さんにまかせっきりで、私はひたすらささやき作戦でスカウトに励んでいましたが、血液センターの方が献血申込書を記入中の方に「ドナー登録はありますか？」って声をかけてくれました。いや～嬉しかったですね。これからもこの調子でご協力いただきたいですね。

実り多い1日でしたが、2時半を過ぎてからの検体は山崎さんに持ち込んでもらうことになったことが残念でなりません。なんとかこちらが持ち込まなくてよい体制が作れないものかと考えてしまいます。

参加されました皆さん本当にお疲れさまでした。(伊井義人)

10/31 鹿嶋市役所登録会報告

10月31日に鹿嶋市役所で登録会を開催し、19名の登録(受付21名、献血87名)がありました。

午前中で15名の登録があり、今年度の記録更新が期待されたのですが、残念ながら午後は伸び悩みました。しかしながら事前の予想では二ケタ突破がいいところと想着ていたので、うれしい誤算でもありました。

参加者は、説明員として安藤さんに早朝のチラシ配布から参加していただきました。ご本人は前回の北浦ではわずか1名に説明したのみで「自信がない」とスタート前に洩らしていましたが、当日は19名への説明をほとんど一人で担当していただいたおかげで、説明員としてしっかり自信をつけてもらえたようです。

当会のオレンジコートに身を包み、落ち着いた雰囲気の説明している様子は、ハタから見てもとても頼もしく思えました。

また、波崎町の宮内さんがいばらきの会の活動に初参加で午後から会場に来ていただき、登録会の様子を見てもらったり、後片づけにもお手伝いいただきました。いずれ落ち着きましたらご自身の出来る範囲での活動参加を是非ともお願いします。安藤さん、宮内さんともに波崎町にお住まいですから来年3月27日の波崎町役場登録会には是非ともご参加いただけるよう、今からご予約に入れていただきました。

ところで当日の広報として、鹿嶋市の担当者へ前日に 庁舎内放送 FM鹿嶋でのPR放送をお願いしておりましたが、 については事前の事務上間に合わない旨を会場で聞き、残念に思っておりましたところ、昼前になんと、FM鹿嶋の記者が取材に訪れ、私のコメントを収録したものが昼12時からのニュース番組の中で地域ニュースとして放送されました。

記者は、山崎事務局長が10月25日にメールで依頼した文書のコピーを持っており、これが当日の取材に結びついたものです。事務局長の事前広報努力のおかげです。ありがとうございました。

マイカーの中で聞いた自分の声は、酒も飲まんのにとっても滑らかで、ポイントをうまくまとめていて我ながら上出来と思いました。(^^) アンケートの中に「FM鹿嶋を聞いて」という方がお一人おられたことが何よりの出演料となりました。(牛島英二)



ドナー登録者30万人をめざして！

<< 登録会速報及び今後の予定 >>

(速報)

11月26日(火) 下館市役所登録会
登録者数: 9名
参加者: 鈴木、山崎(揚)、萩原

12月 3日(火) 石下町総合福祉センター登録会
登録者数: 15名
参加者: 牛島、山崎(揚)、萩原、伊井

(今後の予定)

12月12日(木) 県立こども病院訪問(X'mas企画) 13時集合予定
12月26日(木) 茨城県庁登録会
1月 7日(火) 高萩市役所登録会
1月29日(水) 猿島町役場登録会
2月 5日(水) 友部町役場登録会
2月12日(水) 守谷市役所登録会
2月18日(火) 石岡市役所登録会
2月27日(木) 那珂町中央公民館登録会
3月13日(木) 産業技術総合研究所登録会(つくば市)
3月24日(月) 玉造町役場登録会
3月27日(水) 関城町役場登録会
3月27日(水) 波崎町役場登録会

<< 事務局からの報告 >>

” 事務局にA3コピー機！ ”

前回の会報で事務局業務緩和の為、コピー機のお願いをしていましたが、早速、いばらきの会の川井さんから、友人でキャノン特約店マリーナ産業㈱に勤務する中島さんを紹介して頂きました。

そして、ついに11月中頃、レンタル落ちではありますが「キャノンGP210F」が納入されました。同時に川井さんからもA4用紙2箱(5千枚)をご寄付いただきました。ありがとうございました。

モノクロですがコピーは早いし、縮小拡大、A3判までコピーができて、会報作りもこれで少しは楽ができそうです。早速今回の会報から使わせて頂きました。

そこで気になる費用ですが、納入費31,500円、月々レンタル料1,550円(50枚コピー込)、50枚を超えると1枚につき7円がかかります。なおカートリッジやメンテナンス費用は含まれております。チラシ等やその他コピーなどはご相談ください。(事務局長:山崎揚久)



ドナー登録者30万人をめざして！

「患者負担金の一括前払い制度を導入しないことを求める要望書」 を提出

(財)骨髄移植推進財団は、11月26日に臨時の理事・評議員会議を開催し、患者負担金の一括前払い制度の導入について協議を行うとしています。これは、コーディネートが始まる前に、現在の負担金の最高額程度(金額は未定ですが、70万から100万円が想定されています)を前納させる、というものです。いばらきの会では、11月21日、財団の高久理事長あてに下記の要望書を提出しました。

2002年11月21日

財団法人 骨髄移植推進財団
理事長 高久史磨 様

骨髄バンクを支援するいばらきの会
会長 牛島英二

患者負担金の一括前払い制度を導入しないことを求める要望書

時下ますますご清祥のことと存じます。

我が国に骨髄バンクが誕生して以来、その発展は白血病をはじめとする血液疾患等の患者にとって大いなる光明であり、また、幾多の尊いいのちを救ってきた実績は広く国民に受け入れられ、現在、骨髄バンク事業は、極めて公益性の高い社会システムとして我が国に定着しつつあります。

一方、骨髄バンク事業の推進体制の整備や事業運営の実態においては、30万人のドナー登録目標に対する達成率の低さや、関係機関との連携の不備、貴財団の財政問題等解決すべき重要な問題が山積しているのが実情です。

とりわけ貴財団の財政問題は深刻であり、貴財団自ら適切な債権管理を怠り、多額の未収金を放置し続けたこと等の結果、財務運営に破綻を来し、公益法人の経営にとって前代未聞の基本財産取崩しという事態に陥ったのです。

さらに本年4月には、患者負担金の一部に医療保険が適用されたにも関わらず患者負担金を値上げするに至り、無策による経営失敗の結果を偏に患者に押し付け、自らは何ら責任をとろうとしない貴財団理事者の姿勢に対し社会から強い批判の声が上がったことは記憶に新しいところであります。

このような状況の中、このたび貴財団がその財政構造改善のための主要な対策として新たな患者負担金前払い制度を導入することは、以下に示すとおり貴財団に内在する極めて大きな問題を未解決のまま先送りするものであり、また、この制度そのものが骨髄バンク事業の趣旨と相容れないばかりか、一方的に患者負担を著しく増大させるものと言わざるを得ません。

したがって、当会は、貴財団がこの前払い制度を決して導入しないよう、強く要望するものであります。

記

- 1 新たな一括前払い制度は患者にとって合理性を欠くものです。
(本文略)
- 2 これまで怠ってきた請求、催告等の債権管理業務の適正実施や未収金発生原因等の調査・分析こそ財団経営として急務です。
(本文略)
- 3 新たな前払い制度の導入は、患者だけに負担を押し付け、これまでの財政破綻に責任のある財団理事者が誰一人として傷つかず、汗もかかず、苦勞なしに資金を確保しようとする最も安易な方法です。
(本文略)

以上

ドナー登録者30万人をめざして！

骨髄バンクのボランティアを応援してください

骨髄バンクを支援するいばらきの会では、茨城県内で骨髄バンクの普及啓発をボランティアで行っています。

活動資金は皆さまの善意の寄付によってまかなわれています。ボランティア活動への応援をお待ちしております。なお、ご面倒でもご寄付と会費の納入は郵便振替でお願いします。

郵便振替口座名義:00110-3-127575
加入者名義:骨髄バンクを支援するいばらきの会

事務局より

事務局から御協力をお願い

皆様方のお住まいになっている各市町村や企業などでのイベントがありましたらお知らせください。骨髄バンクのPRに役立てたいと考えております。ご協力お願い致します。

年度年会費納入のお願い

皆様からの会費は大切な運動資金です。有効に活用致します。また善意のご寄付もよろしくお願い申し上げます。 年会費 一口 2,000円 何口でも

会費納入とご寄付をありがとうございました

(2002年9月1日～2002年11月30日現在) (順不同、敬称は略させていただきます。)

寄付: 筋野晃司(10,000円) 伊井さんご同僚

会費:

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年2,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

会報発行: 骨髄バンクを支援するいばらきの会 <http://www.marlow.or.jp/ibaraki>

発行責任者: 牛島英二 編集: 伊井義人・山崎揚久

<事務局> 〒311-1415 茨城県鹿島郡旭村造谷605くるみ屋内

TEL: 090 - 8306 - 7111/FAX: 0291 - 37 - 1425/E-mail: yamazaki@kurumiya.com

編集後記

いつの間にか2002年もあとわずかとなってしまいました。月日の経つのは早いものですね。今年度も残すところ後3ヶ月ちょっとですが、まだまだ登録会は11回予定されています。気合いを入れつつ「気負わず・あせらず・できることから・楽しく」いきましょう。

会報編集担当として今号で4号目となりますが、まだまだ自分の満足のいく会報にはなっていないと感じています。一人前はまだまだ遠い……(伊井)

特定非営利活動法人全国骨髄バンク推進連絡協議会

骨髄バンクのお問い合わせは 0120-892-106、office@marrow.or.jp、<http://www.marlow.or.jp> まで

患者電話相談 白血病フリーダイヤル 0120-81-5929

毎週土曜日 10:00～16:00 * 毎月第2・第4土曜日は血液専門医もご相談をうかがいます

(財)骨髄移植推進財団 ホームページ <http://www.jmdp.or.jp>

ドナー登録についてのご質問・お問い合わせは

財団フリーダイヤル 0120-445-445 または ドナーズネット <http://donorsnet.net> まで